

# 上手な文章の書き方

よい文章をかくためには？

幼い文章の特徴は一方的で一辺倒。幅がなく深みのない文章です。

よい文章を書くためには

同じ言葉の多用を避け、違う切り口から文章を組み立てていくのがコツです。

## 1. 主語を変える

上手な文章の書き方では主語を意識して文章を組み立てましょう。

スピーチは主観的でありながら客観的でなければいけません。

I から始まる文章なのか？ You から始まる文章なのか？

バランスをとることが大切です。自分のスピーチに I が多く入りすぎていないか？

丸をして数えてみよう。

## 2. 無生物主語構文を使う

無生物主語構文は主語を物にすることで、～によって～する

という主語を原因の副詞節にとった文章を組み立てることができます。

これは You や I から始まる平叙文だけの文章に幅を与えることができます。

また Because などの良く使う単語の多用を避けることができます。

第 5 文型を使うことによって、同じニュアンスの文章を Because なしで表現できます。

## 3. レトリックを使う

- **対比** キーワードに対極する言葉を入れることで A ではなく B と強調できる 幅
- **言い換え** キーワードは言い換えを考えて多用を避け表現の幅を広げよう！ 幅
- **比喻** 考えて読ませることによって文章に深みを与えます。 深み
- **反復** リピート効果で印象付け、耳、頭に記憶させます。 幅
- **名言** パロディーや名言はすでに定評があるため客観性を与えることができます。 幅
- **パラグラフライティング** PREP の順で 1 パラグラフの中を組み立てましょう。CCF 深み
- **質問** オーディエンスを巻き込むために質問して一緒に考えてもらう。 深み
- **クロノロジカルオーダー** 時間軸に沿うことで流れが自然になりわかりやすくなります。 深み